

矢作川流域圏懇談会のゆるキャラ  
「はぎぼう」

# 第17回 海部会まとめの会

## 今期の振り返りと来期の活動目標



# 1. 矢作川流域圏懇談会とは

## 【懇談会の目的・運営方針】

### 懇談会の目的

- 矢作川流域圏に関係する各組織のネットワーク化を図る
- 流域圏一体化の取り組み及び矢作川の河川整備に関わる情報共有・意見交換を図る

### 懇談会の運営方針

#### (1) 市民部会の活動の活発化

- 組織のあり方を見直し、市民部会主体の勉強会やイベントの計画を行う。

#### (2) 流域の課題解決に向けて具体的な行動を積極的に行う

- 課題解決に向けた山・川・海部会の積極的な議論と交流を実施する。
- 勉強会やイベント等を通し、山・川・海部会の関係者が協働する。

#### (3) 河川整備計画のフォローアップ

- 「河川整備に関わる情報共有・意見交換」の取り組みを全体会議で共有し、意見交換を行う。

## 2. 今期の活動実績（R6.12.1～R7.11.30）

### 【第15期（R6.12.1～R7.11.30）の活動目標】

<テーマ>

<目標>

⇒：今期の実績

豊かな海の再生  
に向けた取り組み

- 海の**栄養塩不足**に関する対策（干潟・浅場造成や矢作川浄化センターでの試験運用など）の情報共有および意見交換を行う。
- 引き続き、アサリやノリをはじめとする**三河湾の生物資源回復**に向けた具体的な取り組みに関する意見交換を行う。  
⇒「愛知県農業水産局水産課」から情報共有いただき、意見交換を実施
- 外部団体（伊勢湾再生海域検討会、伊勢湾総合対策協議会・海洋ごみ対策検討会等）と交流・情報共有する。⇒三河湾大感謝祭などで交流・情報共有

海と人との絆再生

- 海の生態系と流域との関係性の理解を深め、**上下流連携を推進**していく。
- 三河湾大感謝祭などの**地域イベントを通じて**海と人との絆の重要性を啓発する。  
⇒三河湾大感謝祭に参加し、動画の公開やステージイベントなどを実施
- 流域市民に海の現状や課題を知っていただくことを目的に市民部会と連携しエクスカーション等の流域市民の方が参加しやすいイベントを開催する。  
⇒既存のイベントに参加し、情報発信

ごみの問題

- 三河湾だけではなくより広い範囲で**ごみ問題に関わる活動との連携**を継続していくとともに、矢作川流域圏のごみ問題に関する状況等の情報交換を行う。  
⇒「22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会」などとの連携を継続し情報交換を実施

土砂の問題

- 河川の**治水事業や干潟・浅場造成事業**の途中経過の状況を把握するとともに他部会との情報共有および意見交換を行う。⇒市民部会・海部会合同WGを実施
- 出水に伴う**土砂流出**に関する意見交換・情報共有する

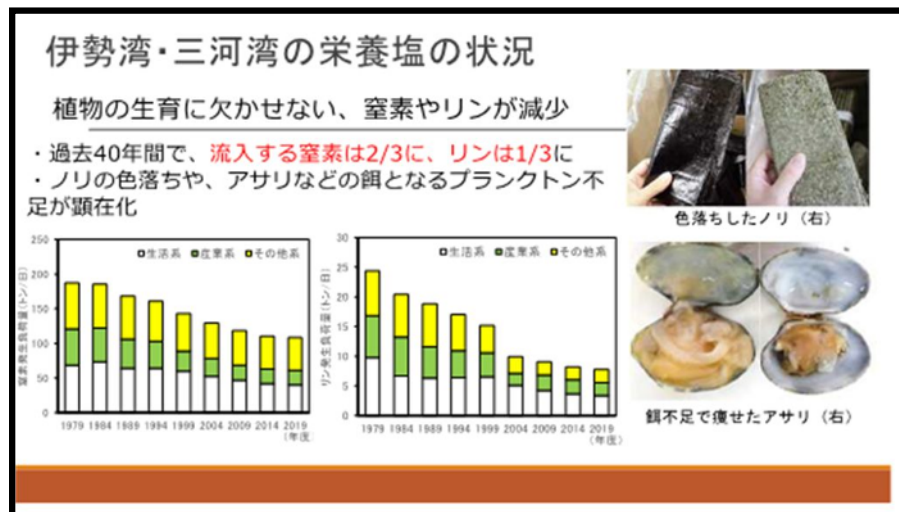
## 2. 今期の活動実績 (R6.12.1~R7.11.30)

豊かな海の再生に向けた取組について (テーマ①豊かな海の再生に向けた取り組み・テーマ③土砂の問題)

市民部会・海部会合同WGにて、愛知県農業水産局水産課から情報共有いただき、市民部会と海の栄養塩不足や干潟・浅場造成事業、合同イベントなどについて意見交換を行いました。

【愛知県農業水産局水産課から情報共有いただいた内容を一部紹介】

- ・現在の伊勢湾・三河湾は栄養塩が不足していることに起因して、海苔の色落ちや、アサリ等の餌となるプランクトン不足が顕在化している。
- ・改善するために「社会実験」として2箇所の浄化センターで放流水中の窒素とリンの濃度を増加させる取組をしている。結果、海苔の色落ちは軽減されたが、アサリについては、個体数は増加したが肥満度は低下した。これは栄養塩が不十分であることが理由であると考えられる。
- ・「社会実験」の結果を踏まえて「栄養塩増加運転の継続 (2027年度まで)」、「栄養塩増加運転を恒常的に実施するための枠組み検討 (類型見直しや総量規制基準の緩和の検討)」、「栄養塩を漁業生産につなげるための取組 (水産生物の産卵や育成の場となる干潟・浅場造成を推進)」が必要。



出典：愛知県農業水産局水産課 提供資料



市民部会・海部会合同WG(R7.2.13)の様子

## 2. 今期の活動実績 (R6.12.1~R7.11.30)

### 伊勢・三河湾の現状 (テーマ①豊かな海の再生に向けた取り組み・テーマ③土砂の問題)

第56回海部会WGにて、伊勢湾・三河湾の現状について情報共有・意見交換を行いました。

- ・水産資源の衰退には温暖化や黒潮の蛇行など様々な原因はあるが、ベースにあるのは2010年以降の栄養塩不足が一番大きな原因ではないかと考える。
- ・下水道は必要なインフラであるが、栄養塩不足を助長させる要因となる。下水道整備は、広域な流域下水道よりも、従前からの中山間地での市町単位の下水処理、個別家庭での浄化槽等の排水処理などが大事ではないかと考える。
- ・「きれいな海」が「豊かな海」の二者択一ではなく、「きれいで豊かな海」はあると考える。緊急性の面からでは、まずは栄養塩不足の問題となるが、干潟や浅場の問題は決して消えたわけではない。矢作川の中で砂の循環を戻すことも忘れないようにする必要がある。

### 流域市民への発信について (テーマ②海と人との絆再生)

第56回海部会WGにて、流域市民への発信について情報共有・意見交換を行いました。

- ・WGで意見交換している内容から子ども向け資料や動画を作成し、学校でのイベントなどで説明することも一つの案である。
- ・子ども達は学校で環境問題を学んでいるが、自身との関係への認識が薄いのが現状である。現場や海苔を活用して環境問題と自身との関係をつなげるのがよいと考える。
- ・部会のメンバーが、ネットワークを広げて、部会で話題となった課題をPRし、それを少しでも具体的な形に転換できるかが重要である。



第56回海部会WG (R7.6.12)  
の様子

# 2. 今期の活動実績 (R6.12.1~R7.11.30)

動画作成 (テーマ②海と人との絆再生)

## ○三河湾の栄養塩不足に関する動画

三河湾の現状を多くの流域市民の方に知っていただくため、海苔・アサリの生産者の方へのインタビューや青木氏、鈴木氏の解説をまとめた動画を作成しました。作成した動画は、三河湾大感謝祭などで公開しました。



インタビュー状況



三河湾大感謝祭での公開状況

### 動画の概要

#### ①海苔・アサリの生産者の方へのインタビュー



#### ②三河湾の漁業の現状(鈴木氏)

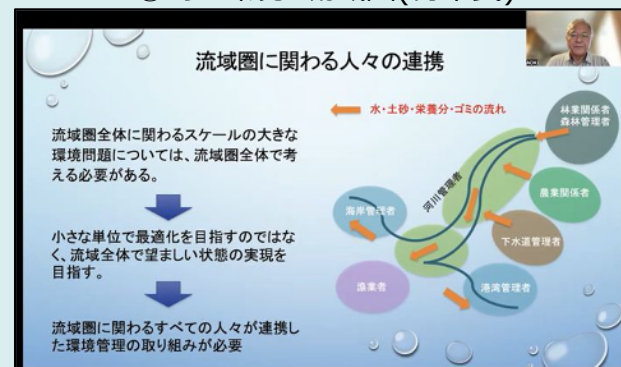
愛知県栄養塩管理検討会議※の結果

色	類型	環境基準値	
		全窒素	全リン
IV型	IV類型	1 mg/L以下	0.09mg/L以下
III型	III類型	0.8 mg/L以下	0.05mg/L以下
II型	II類型	0.3 mg/L以下	0.03mg/L以下

漁業生産に必要な全窒素濃度は0.4mg/l、全リン濃度は0.04mg/lはIII類型で、II類型からの変更が必要

※愛知県では、愛知県栄養塩管理検討会議を2022年9月に設置し、2022年度から2年間実施された「水質保全と『豊かな海』の両立に向けた社会実験」の結果を検証するとともに、漁業生産に必要な栄養塩管理のあり方について検討

#### ③海の環境と流域圏(青木氏)



## 2. 今期の活動実績 (R6.12.1~R7.11.30)

地域連携イベントの参加 (テーマ②海と人との絆再生)

### ○第12回三河湾大感謝祭

第12回三河湾大感謝祭では、活動紹介や三河湾の現状に関する動画の公開、流域マップへのアンケートなどを実施しました。ステージイベントでは、座長 青木先生、事務局 山路副所長に懇談会の説明や三河湾の現状などについてご説明いただき、流域市民への啓発を行いました。



内容説明の様子



ステージイベントでの紹介の様子

## 2. 今期の活動実績（R6.12.1～R7.11.30）

### 【今期の活動】

第15期の海部会の活動を下記に示す。

	活動	日時	場所・内容
第15期	市民部会・海部会合同WG	令和7年2月13日（木）	場所：西尾市 中央ふれあいセンター 視聴覚室 内容：第15期の活動目標について 第5回公開講座の振り返りについて 豊かな海の回復に向けた取組について 市民部会・海部会の合同イベントについて
	第56回WG	令和7年6月12日（木）	場所：西尾市役所 内容：矢作川流域付近で開催されているイベントへの参加について 三河湾の現状について
	第12回三河湾大感謝祭	令和7年10月5日（日）	場所：吉良ワイキキビーチ（宮崎海水浴場） 内容：矢作川流域圏懇談会の活動紹介、動画の公開、ステージイベント、
	第17回海部会まとめの会	令和7年10月23日（木）	場所：西尾市中央ふれあいセンター 内容：今期の活動成果のまとめと今後の活動目標について意見交換

# 3. 来期の海部会の活動目標

## 【第16期の活動目標】 下記の第15期の活動目標をベースにまとめの会で修正・追記

「豊かな海」や「海と人との絆」の再生に向けた様々な取り組みについて情報共有・意見交換を行うとともに、流域圏全体に関わるごみ問題や土砂の問題についても、今後外部に発信していくことを念頭において、他部会や外部団体との連携をはかる。

### <テーマ>

### <目標>

豊かな海の再生に  
向けた取り組み

- 海の栄養塩不足に関する対策（干潟・浅場造成や矢作川浄化センターでの試験運用など）の情報共有および意見交換を行う。
- 引き続き、アサリやノリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換を行う。
- 外部団体（伊勢湾再生海域検討会、伊勢湾総合対策協議会・海洋ごみ対策検討会等）と交流・情報共有する。

海と人との絆再生

- 海の生態系と流域との関係性の理解を深め、上下流連携を推進していく。
- 三河湾大感謝祭などの地域イベントを通じて海と人との絆の重要性を啓発する。
- 流域市民に海の現状や課題を知っていただくことを目的に市民部会と連携しエクスカーション等の流域市民の方が参加しやすいイベントを開催する。

ごみの問題

- 三河湾だけではなくより広い範囲でごみ問題に関わる活動との連携を継続していくとともに、矢作川流域圏のごみ問題に関する状況等の情報交換を行う。

土砂の問題

- 河川の治水事業や干潟・浅場造成事業の途中経過の状況を把握するとともに他部会との情報共有および意見交換を行う。
- 出水に伴う土砂流出に関する意見交換・情報共有する。